

# インディアナ日本語学校便り

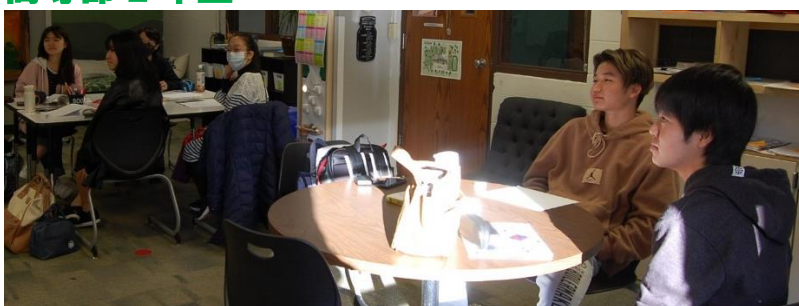
学校教育目標 自ら学び、正しく行動する国際性豊かな児童生徒の育成



## 高等部 1 年生



## 高等部 2 年生

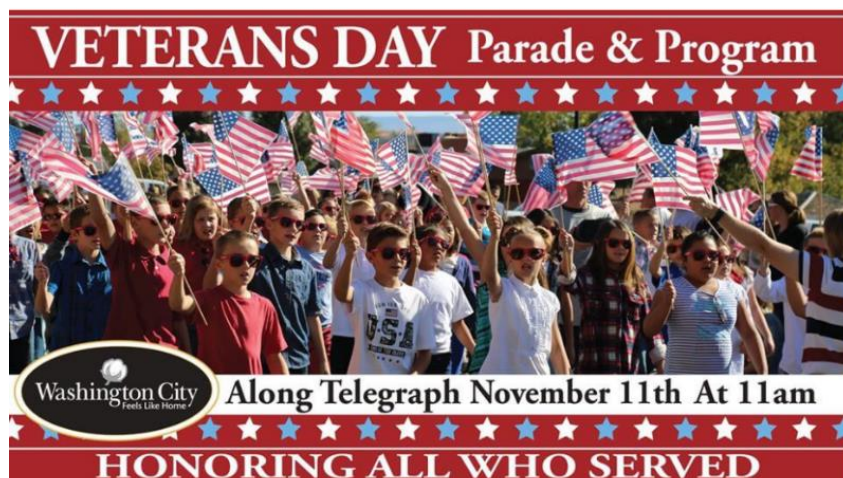


## 高等部 3 年生



ふくいんぐんじん たいえきぐんじん  
復員軍人(退役軍人)の日(ベテランズデー Veterans Day) 11月11日

復員軍人の日(ベテランズデー)とは



だい 1 じ せ かい たい せん  
第 1 次世界大戦で、アメリカ軍に加わっ  
て戦った軍関係者に敬意するために設定さ  
れました。第 1 次世界大戦は 4 年間続き、  
1918 年 11 月 11 日に終わり、その日が休戦  
きねん び えい えん  
記念日となりました。永遠の平和を手にす  
るために戦争で犠牲になった人々を記憶に  
とどめるために、休戦記念日としたのです。  
休戦記念日には、戦争を生きぬいた兵士た  
ちが、故郷の町を行進し、政治家や退役  
しょうこう  
将校がスピーチをし、彼らが勝ち取った平

和に感謝する式典を行いました。



1954 年 11 月 11 日、アイゼンハワー大統領はこの日を国民の祝日とし、ベテランズデーは、呼び名を「休戦記念日」から「復員軍人の日」と改めました。そして、第 2 次世界大戦と朝鮮戦争の軍人も含まれるようになり、どの戦争かに関わらず、従軍したすべての軍人に敬意を表される日となりました。現在ではアメリカ全人口のおよそ 13 パーセントに当たる 2600 万人以上の復員軍人がアメリカに住んでいます。

復員軍人の日になると、人々はワシントン DC にある戦没者記念碑を訪れます。また、自分の住んでいる地域で行われる記念式に出席したり、パレードに参加したりします。バージニア州アーリントンにあるアーリントン国立共同墓地では、式が毎年 11 月 11 日に行われ、午前 11 時に大統領が「無名戦士の墓」にリースを供えます。ニューヨークでは、アメリカズパレードと呼ばれる全米最大のベテランズデーパレードが開催されます。このベテランズデーパレードは 1929 年以来毎年開催されており、20,000 人以上の人が参加します。(その後のベトナム戦争(1961~1975 年)、湾岸戦争(1990~1995 年)など最近の紛争も

含まれています。)アメリカ人の休戦記念日への思いは、国のために死んでいった人々の勇敢な行動に対する誇りと、勝利への感謝に満ちたものであり、それによりアメリカは解放され、平和と正義を支持する国となったという考えに基づいています。ただし、第 2 次世界大戦後、アメリカが関わった戦争がすべて正しいとは言えません。何よりも、平和的に解決する道を探ることが大切なのです。

## 戦争に関する読書感想文 高等部

「待ち伏せを読んで。」 高校 1 年生 梅村彩音

私はこの本を読んで、筆者が戦争の話を書き続けている原点は筆者が戦争中に人を殺してしまった経験から始まっていることが分かりました。そして戦争が、人の命を奪うだけでなく、人に恐ろしいことをさせることに気づき驚きました。

筆者は待ち伏せ中、猫背気味の若者に出くわし、条件反射的に彼に対して手榴弾を投げました。彼は手榴弾が落ちた音に気づき逃げようとしたが躊躇し、逆に自分を守ろうともせず手榴弾に吹き飛ばされました。私はこの場面を読んだ時、彼の心のなかでどのような葛藤が起こったのか考え、とても怖くなりました。本来の若者自身は死にたくないはずなので無意識に逃げるはずですが、彼はきつと厳しい戦場を体験して、疲れ果てて歩いています。仲間がどんどん殺されていくところを見てきつこう思っただけです。きつと僕はそのうち殺されるだろう。これからもっと苦しい場面で戦うなら今のうちに死んでおいたほうが良い。その結果、かれは自ら死を選んだのだと私は考えました。また、戦争は、戦いに生き残った筆者にもトラウマを与えました。筆者が無意識に投げてしまった手榴弾は、正当な判断だったのか。この本を書いている当時でも悩んでいました。筆者はこの事件が起こるまで、人を殺すことなど考えたことがなかったと言っています。戦国時代の訓練をして、国を守るという意味を持った武士たちではなく、無理やり国から命令され、簡単に使える武器を持たされ戦っている、戦争をまだ受け入れていない兵士が集った戦争が人に与える刺激はとてつもないものだと思います。そう考えると、このベトナム戦争はなんて無責任なんだ、と腹が立ちました。

筆者は自分自身の経験を述べることで、戦争の悲惨さを私達に伝えたかったのだと思います。筆者はまだ、自分のしたことを正当化できず、過去にとらわれて生きています。若者の生きる目的を無くさせ、筆者にトラウマを与えた戦争を私達は絶対に忘れず、二度と起こさないよう努力していかなければなりません。

**「待ち伏せを読んで。」**      **高校 1 年生**      **竹本 咲**

僕がこの小説を読んで思ったことは、筆者は戦争を経験していない人たちからすると考えられないような経験だと思いました。

今行われているロシアによるウクライナへの軍事的侵攻のことを考えると、メディアはロシアを一方的に批判しているが階級の低いロシア兵の中には筆者のような経験した人もいると思うし、自分も人を殺したらうつ病になると思いました。

そして見張りの時の緊張感や吐きそうになったことなど、僕は怖くて吐きそうになったことなんてないからそうなることは想像つかない。

305 ページの 6 行目の人を殺すということについて特に考えてなかったという文にさっき書いたロシア兵の中にも同じように思っている人もいると思うし、今も昔も同じ人間を殺してきたという歴史が世界にあったというのはすごくおかしいことだとこの文から思いました。

同ページの 12 行目のさあ投げろんだと自分に言いかけせる前に、私はもう既に手榴弾を投げてしまっていたという文は戦争の恐ろしさを表している文だと思いました。なぜならさっきまで人を殺すことを恐れていた人間がそれ以上の恐怖を感じて自分で気づかず手榴弾を投げてしまっていたから戦争というのは恐ろしく人間から一瞬だけ理性を奪ってしまうから。そしてそれがロシア対ウクライナのように何ヶ月も続くと一部の兵士は理性が失われうつ病のようになると感じました。

最後にこの小説を読んで、筆者の生々しい経験から、戦争の恐ろしさ人間を壊してしまうなど思いました。そして、今起こっているロシアとウクライナの問題も早く終わることを願うしメディアも両国の兵士の辛さをもっと世界中の人々に伝えて、この二国間以外の軍事的な問題や宗教的な理由で中東など世界では起こっているから、それらがおかしいことだと当事者たちはすぐに気づいてほしいなど思いました。このようなことに僕も気づいて、この小説を読んでよかったなど思いました。

**「空缶を読んで」**      **高校 2 年生**      **片岡太一**

僕は、第一に、この作者たちが経験した当たり前の中に生きていなくてよかったと思った。この物語では、語り手の「私」が自身も被爆した長崎の学校へ友達と訪問する。そこで訪問中の5人はいろいろな思い出話をするが、今では、というか普通では衝撃的な内容のことを、当たり前のように話し、当時の状況を語る。

一つは、学校の荒れ果てた姿を見ているところだ。語り手は、「原爆投下後から卒業するまでの2年間、この校舎にはまでガラスが一枚もなかった。」という。そんな状態の学校を自分は見たことがないし、原爆の強力さを物語っているなど思った。

二つ目は、背中にガラスの破片が埋まっていることを話す場面だ。語り手の友達の大木は、背中に、被爆した時飛び散り刺さったガラスが埋まっていて、その影響を話した。それを想像した時点で自分には到底耐えきれないと思ったが、そんな状態の人が被爆地には何人もいることがわかる。原爆の影響は放射能だけでなく、そんなものもあるのかと驚いた。

そして一番衝撃的だったのが、語り手の友達であるきぬ子の空缶事件の話だ。きぬ子は原爆で父と母をなくし、焼けただれた空缶に両親の骨を入れて毎日登校していたという話だった。きぬ子は最初はそれを隠していたが、ある先生に指摘されるまで、クラスのどの生徒もその空缶について言及しなかったらしい。毎日学校用の道具と一緒に持ってくる焼けただれた空缶を異様に思わなかったのも、両親の遺骨を毎日持ち歩いた自分と似た歳の女の子がいたのも、僕からしたら到底理解できないことだなと思った。

たった数秒の、たった一度の爆発で、こんなにも昔と今の当たり前が違うのには、戦争の狂気と残酷さを感じる。死なずに、何も考えず、何も心配せず、ゲームの文句を言いながら、ガラスが背中に刺さっていない状態で、親の遺骨を運ばずにただただ生きていられる今に、感謝したいと思った。

## 「空缶を読んで」

高校 2 年生

吉村泉希

林京子さんの「空缶」は長崎で原爆が落ちた頃の生徒たちが大人になって戦争後に母校を見に行くお話です。物語の視点からである「私」を含め、五人で廃校になる母校を最後に見るために 三十年ぶりに集まっていたのです。

五人のうち四人が被爆者であり、各々の戦後の暮らしも書かれています。体育館や教室を見て周っていると色々な思い出や様々な感情が溢れています。その中で、この中にはいない、きぬ子のお話が上ります。前、原爆後にきぬ子は学校に「赤く、炎でただれた蓋のない空缶」を持ってきていて、その中にはお父さんとお母さんの骨が入っていたのです。

物語はきぬ子が今、入院すると決まっていてその背中から三十年前の爆風でのガラスの片は何個出てきて、「光の中に取り出された白い脂肪のぬめった珠は、どんな光を放つのだろう か。」の問いで終わります。

私は最初に題名「空缶」を聞いたとき、原爆の話だとは思いませんでした。この物語は長崎で被爆した作者の体験した苦しみや辛さが表されている作品です。原爆で生き残った人達の苦労や生き方の違いが伝えられています。被爆者たちは原爆症を持ち、常に不安を抱えながら生きていた事やこれからもこの経験を背負い続けていかなくてはいけないという重さに心苦しくなる感じが表現されています。

あえて母校を見に来た五人の中にいないきぬ子のお話を題名にした事が印象深いです。戦争後、「焼けた家の跡に立って、白い灰の底から父と母の骨を拾う、幼ききぬ子の、うつむいた姿」を想像し、空缶を学校に持ってきた事は戦争や原爆の残酷さや苦痛を表していると思いました。

怪我の手術をしても、時間が経っても、被爆者たちは惨痛から解放されるのだろうかという疑問と表現が難しい深刻な感情を作者は伝えているのかなと感じました。

## 『秋の俳句集』

小学部六年二組

栗ごはん 栗取つてきて たのしいな

大前 舵偉

秋サンマ あぶらがのつて おいしいな

川上 煌音

かかしのお かげからできる 人のかげ

佐々木 登梧

金と赤 光が反射 葉にうつる

タニルディズエネス

暗い夜 かぼちゃやあめ ハロウィン

山田 海太

ハロウィン かぼちゃ切つて たのしいな

長瀬 心

天然の オルゴールのよう 虫の声

野田 あかり

スズムシの 歌声ひびく 演奏会

本多 那帆

真っ赤になり もつとジュシー 秋りんご

バンクロフト クレア

にぎやかな とても楽しい 秋祭り

松本 紗穂

秋の時 きな粉ともちで できあがり

ヨーク エリザベス

## 【お知らせ】

○第 2 回漢字検定

2023 年 1 月 28 日に実施。

申込書 11 月 19 日配布予定。

締め切り 12 月 5 日

11 月 19 日

期末テスト(中学部)

弁論大会(高等部)

11 月 26 日

学校休み サンクスギビング

本日の配布物

なし

